

## 京都のオーバーツーリズム対策は実を結ぶか



5月の連休も終わったが、依然として京都におけるオーバーツーリズムの現象は際立っている。円安の影響があり海外からの観光客の流入が止まらない。また市内中心に高級外資系ホテルの開業が相次ぐ。このままさらに観光客の増加が続けば、市民生活に大きなマイナスの影響が出ると心配する声は多い。京都は今後どのようなオーバーツーリズム対策を打てばいいのか。

<解説>以前から京都への観光客は年間5000万人と言われていた。この数字はどのように算出したのか知らないが、5000

「オーバーツーリズム」  
観光地 京都市の対策は

### 京都市「オーバーツーリズム」新対策

- ▼ 通訳ガイドが外国人観光客対象に  
京都の観光地を回り  
歴史や文化とともにマナー伝える
- ▼ 観光客が少ない朝・夜の時間帯に  
行われるイベント  
混雑予測など紹介するパンフレット配布

万人と言え、ざっくり言うと毎日約15万人の人が他府県や海外から観光客が来る計算になる。JRや私鉄、車、それ以外の交通手段で京都に来る。また修学旅行が毎年100万人くらいある。特に、集中するのは春の桜シーズン、秋の紅葉シーズン。それ以外には、京都の3大祭り、祇園祭、葵祭、時代祭りの3日間だ。意外にも、これ以外では、2月の入試シーズンや6月、11月の修学旅行も繁忙期になる。年末年始も京都で過ごしたいという特に他府県からの宿泊客が多い。特定の季節、

日程に集中するので、これらの前後はホテルも予約が取りにくい。観光地、特に清水、嵐山、有名社寺は参拝者、観光客が殺到する。伏見稻荷、金閣寺、二条城、平安神宮などは、参道に海外からの旅行者が溢れる。当然、交通機関の混雑は激しく、食べ歩きのゴミ問題、マナーの悪さ、交通渋滞などが頻発する。烏丸四条に昼食時間に堂々と観光バスが駐車して、周囲の交通障害になっている。ポイントは「分散」だ。まず日程を分散する。いつ京都に来て、世界遺産京都市の素晴らしさが満喫できるように、魅力

TBS NEWS DIG

解説

文通への影響 ゴミ・騒音トラブル マナー違反

・住民の生活に影響  
・観光客 満足度低下

## 「オーバーツーリズム」対策は

京都 オーバーツーリズム解消へ カギは分散

中心から「周辺」へ オススメ観光地6カ所

京都府・住吉町の多摩川  
京都府・伏見区の嵯峨野  
京都府・宇治市の宇治川  
京都府・丹波市の丹波川  
京都府・丹波市の丹波川  
京都府・丹波市の丹波川

を分散することだ。次にエリアを分散する。有名観光地を今から分散することはできないので、それ以外の地域に魅力を発信できるエリアを作ることだ。一時期京都府が、「お茶の京」で山城地区を、「森の京都」で丹波地域を、「海の京都」で丹波地域の活性化を図ったが、何とも中途半端に終わった。火をつけたことはあっただろうが、その後の継続性に乏しい。官公庁の仕事は3年という一定の期間で設定するから、3年で火が付かなければその後のフォローは乏しい。